

『古代アメリカ』 7, 2004, pp.77-83

<特集：調査速報 —2003年のフィールドから—>

## テオティワカンの月のピラミッド出土の土器について

佐藤悦夫  
(富山国際大学)

### 1. はじめに

標高約 2300m のメキシコ盆地に位置するテオティワカン遺跡は、前 1 世紀から後 7 世紀頃まで栄えたアメリカ大陸最大級の都市国家であった。テオティワカンでは、入念な都市計画に基づいた建築活動が、西暦 1 年から 150 年にかけて行われた。その都市設計の軸となったのが、一辺約 150m、高さ 45m の「月のピラミッド」を基点として、都市の中央部を南北に走る長さ 4 km、幅 45m の「死者の通り」と呼ばれる大通りであった。この通りに沿って、20 以上の神殿が建設され、この中でも「太陽のピラミッド」は、一辺約 220m、高さ 65m の規模を持つ巨大な神殿であった。その後 150 年から 200 年ごろにかけて「ケツァルコアトルの神殿」が都市の南側に作られテオティワカンにおける巨大なモニュメント建築は終わる。

本稿は、1998 年より開始した月のピラミッドの調査により出土した土器についての中間報告である。

### 2. テオティワカンの土器の研究史と時期区分

#### 2-1. 土器の研究史

テオティワカンの土器研究は 1960 年以降本格的に開始されたが、マヤ研究のような統一的な分類方法は確立されておらず、また博士論文等での研究報告は多くあるが正式な出版物は少ない。

セジュールネは、1950 年から 60 年代に発掘されたアテテルコ(Atetelco)地区、サクアラ(Zacuala)地区、ヤヤウアラ(Yayahuala)地区の土器を紹介している。これらの発掘により、香炉を含む多くの完形の土器が出土し、それらの土器はテオティワカン I 期からテオティワカン IV 期までの時期の土器として分類された (Sejourne 1966)。

スミスは、マヤ研究で使用されている Type-Variety 分類法を使用して 1960 年代に発掘された太陽のピラミッド出土の土器を分析した。スミスは、土器のタイプの命名法などにマヤ研究の方法論をそのまま適用したために、スミスの研究報告は他のテオティワカンの土器研究とは大きく異なっている (Smith 1987)。

ベニホフは、テオティワカン地図プロジェクト(Teotihuacan Mapping Project)の土器の分析を行った。この報告書は、出版されることはなかったが、原稿が存在する。ベニホフ等は、表面調整や胎土の

特徴に応じて Ware を定義し、それぞれの Ware の中で器種を決定し、時代毎の変化を報告している (Bennyhoff and Millon 1967)。

ラットレイは、ベニホフ等の Ware 及び土器のタイプ名の命名法を踏襲し、さらに上述したテオティワカン地図プロジェクトにおける試掘調査の土器データを使い、それぞれのタイプの編年を確立した (Ratray 2001)。

## 2-2. 時期区分

テオティワカンの時期区分は、1960年代にミリオン等を中心に行なわれたテオティワカン・マッピング・プロジェクトで作成された時期区分が使用されていたが (Millon 1973)、近年ラットレイにより表1に示すようにトラミミロルパ期以降の絶対年代が修正された (Ratray 2001)。

表1 テオティワカンの時期区分

	Millon 1973	Ratray 2001
パトラチケ期(Patlachique phase)	B.C.150-B.C.1	B.C.100-B.C.1
サクワリ前期(Early Tzacualli phase)	A.D.1-100	A.D.1-100
サクワリ後期(Late Tzacualli phase)	100-150	100-150
ミカオトリ期(Miccaotli phase)	150-200	150-200
トラミミロルパ前期(Early Tlamimilolpa)	200-300	200-250
トラミミロルパ後期(Late Tlamimilolpa)	300-450	250-350
ショラルパン前期(Early Xolalpan phase)	450-550	350-450
ショラルパン後期(Late Xolalpan phase)	550-650	450-550
メテベック期(Metepec phase)	650-750	550-650

(出所: Millon 1973, Ratray 2001)

## 3. 月のピラミッド出土の土器

### 3-1. 出土層位および出土数

月のピラミッドは、1998年から始まったトンネル発掘により7期の建造物の増改築があったことが解明されている (杉山 2000)。土器の分析は、第1期の建造物の下にあり、地山直上の自然堆積層と考えられる第56層から開始し、第1期の建造物から第4期の建造物の盛土から出土した土器をコンピュータに1片ずつデータを登録している (使用ソフトは Access)。それぞれの建造物の盛土から出土した土器片数および登録数は表2に示す。口縁部破片、文様のある胴部破片や底部破片が主に抽出され登録されている。

表2: 土器の出土数

	土器片数	登録数
自然堆積層	2,090	194
1期建造物の盛土	4,885	263
2期建造物の盛土	12,348	768
3期建造物の盛土	602	39
4期建造物の盛土	12,310	1,066
Total	32,235	2,330

### 3-2. 月のピラミッド出土の土器

2000年から土器分析が開始され現在分析途中である。従って、最終的なタイプ名はつけられていない。これらの土器ユニットは、胎土、表面調整、装飾技法の属性に着目しグループ化して、暫定的なグループ名が付けられている。

#### (1) パトラチケ期の土器の特徴

##### ①Negative group

ネガティブ文様を持つグループは、胎土は少量のテンパーを含むが良質である。表面は良く研磨され、ネガティブ文様と赤色のペイントが施される。シリンダー状の鉢、碗などがある。

##### ②Red on Natural group

褐色の表面に赤色のペイントが施されるグループで、胎土は良質、表面は研磨されている。器種は、碗、シリンダー状の鉢がある。

##### ③Red and Black on Natural group

褐色の表面に赤色と黒色のペイントが施されるグループで、胎土は良質、表面は研磨されている。器種は、碗がある。

##### ④Red and White on Natural group

褐色の表面に赤色と白色のペイントが施されるグループで、胎土は良質、表面は研磨されている。器種は、碗、シリンダー状の鉢、壺がある。

##### ⑤Red, White and Black on Natural group

褐色の表面に赤色、白色、黒色のペイントが施されるグループで、胎土は良質、表面は研磨されている。器種は、碗、シリンダー状の鉢がある。

##### ⑥Polished Black group

胎土は良質で、色は褐色から黒色までである。表面は内外面ともよく研磨され、一般的には内外面とも黒色であるが、片面だけ黒色の土器もある。器種は、碗、テコマテ、壺などがみられる。テコマテは、サクワリ期以降は消滅する器種である。

## ⑦Polished Brown group

胎土良質で、色は褐色、暗褐色、オレンジ系褐色である。表面は内外面ともよく研磨され、一般的には内外面とも褐色、暗褐色、オレンジ系褐色である。器種は、碗、壺、大型の鉢(Basin)等がある。

## ⑧Polished Red group

胎土は良質で、色は褐色、暗褐色、オレンジ系褐色及び黒色である。表面は内外面ともよく研磨され、一般的には内外面とも赤色である。器種は、碗がある。

## ⑨Burnished Brown group

胎土はやや荒いものから良質のものまであり、色は褐色からオレンジ系褐色及び黒色である。表面は内外面ともよく調整され、褐色からオレンジ色である。器種は、碗や大型壺、テコマテ、大型の鉢等がある。大型壺の“Round Wedge Rim“と呼ばれる肥厚する口縁部は、典型的なパトラチケ期の特徴である。

## ⑩Coarse Matte group

褐色あるいは明褐色の砂質の胎土で表面はナデ調整が行われるだけである。器種は、香炉である。

表3は、パトラチケ期の土器グループ毎の構成比である。パトラチケ期に属する土器の個体数(口縁部数)は、965で、その中で Burnished Brown group が 42.1%を占める。

その他 Red on Natural group(17.0%)、Polished Brown group(13.9%)、Polished Black group (12.0%)の出土数が多い。Blucher が調査したトラチノルパン遺跡のパトラチケ期の土器では、Burnished Ware の文様の無いタイプが 84.5%、Polished Ware の文様の無いタイプが 0.85%であり構成比から考えるとトラチノルパンとは異なっている (Blucher 1971)。

表3:パトラチケ期における土器グループの構成比

土器グループ	出土数(Rim)	%
Negative group	21	2.2%
Red on Natural group	164	17.0%
Red and Black on Natural group	15	1.6%
Red and White on Natural group	24	2.5%
Red, White and Black on Natural group	7	0.7%
Polished Black group	116	12.0%
Polished Brown group	134	13.9%
Polished Red group	65	6.7%
Burnished Brown group	406	42.1%
Coarse Matte group	13	1.3%
Total	965	100.0%

## (2) サクワリ期の土器の特徴

## ①Negative group

ネガティブ文様を持つグループの特徴は、オレンジ色から赤褐色で白色の細かい粒を含む胎土である。表面調整や文様はパトラチケ期と同様であるが、器種では碗のみが認められている。

## ②Red on Natural group

オレンジ色から赤褐色の色で白い含有物を多量に含む胎土あるいは黒色の胎土が特徴である。褐色の表面に赤色のペイントが施される。器種は、碗や壺である。

## ③Red and Black on Natural group

胎土や表面調整の特徴は Red on Natural group と同様であり、赤色と黒色のペイントによる文様が描かれる。

## ④Red and White on Natural group

胎土や表面調整の特徴は Red on Natural group と同様であり、赤色と白色のペイントによる文様が描かれる。器種は、シリンダー状の鉢や碗である。

## ⑤Red, White and Black on Natural group

胎土や表面調整の特徴は Red on Natural group と同様であり、赤色、白色、黒色のペイントによる文様が描かれる。器種は、碗である。

## ⑥Polished Black group

胎土は良質で、色は褐色あるいはオレンジ色で細かい白の含有物を含む。表面は内外面ともよく研磨され光沢がある。器種は、碗、皿、壺、トラロック壺などが見られる。

## ⑦Polished Brown group

胎土良質で、色は褐色あるいはオレンジ色で白色の細かい粒子を含む。表面は内外面ともよく研磨され、一般的には内外面とも褐色、暗褐色、オレンジ系褐色である。器種は、シリンダー状鉢や碗である。

## ⑧Polished Red group

胎土は良質で、色は一般的に褐色あるいはオレンジ色で白色の粒子を含む。表面は内外面ともよく研磨され赤色である。器種は、シリンダー状の鉢あるいは碗である。

## ⑨Burnished Brown group

胎土は褐色からオレンジ色で、やや荒く多くの白色の粒子を含む。表面は内外面ともよく調整され、褐色からオレンジ色である。器種は、碗や大型壺、大型の鉢等がある。大型壺の口縁部は肥厚する。

## ⑩Coarse Matte group

荒い胎土で表面はナデ調整が行われるだけである。器種は香炉やミニチュア土器であり、香炉の口縁部は刺突文などで装飾される。

## ⑪Fine Matte group

胎土は良質で明褐色で柔らかい。表面調整は荒い。器種は Cover Plate で、香炉の蓋あるいはそれ自体が香炉として使用されたものである。

表 4 は同様にサクワリ期の土器グループの構成比である。サクワリ期に属する土器の個体数は、1040 で、ここでもやはり Burnished Brown group が 37.9% を占める。また、パトラチケ期に無かった

表4:サクワリ期における土器グループの構成比

土器グループ	出土数(Rim)	%
Negative group	9	0.90%
Red on Natural group	52	5.00%
Red and Black on Natural group	1	0.10%
Red and White on Natural group	25	2.40%
Red, White and Black on Natural group	4	0.40%
Polished Black group	133	12.80%
Polished Brown group	178	17.10%
Polished Red group	31	3.00%
Burnished Brown group	394	37.90%
Coarse Matte group	12	1.20%
Fine Matte group	190	18.30%
Other	11	1.10%
Total	1,040	100%

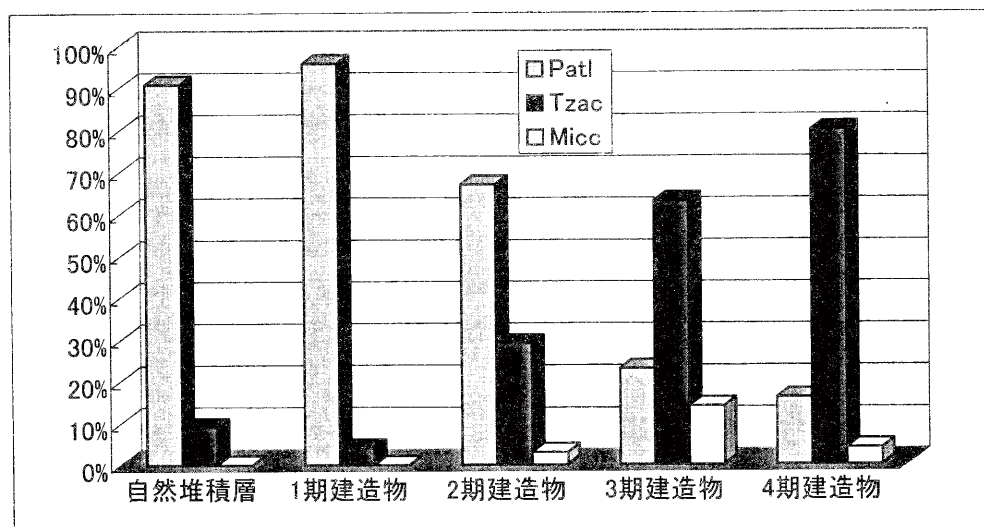
Fine Matte group が 18.3%であり、Polished Brown group(17.1%)、Polished Black group (12.8%)が続く。Negative group や Red on Natural group は減少傾向にある。

### 3-3. 各建造物出土土器の時期別構成比

それぞれの建造物出土の土器の時期別構成比を示したのが図1である。

56 層では、パトラチケ期に属する土器が 91.1%、サクワリ期の土器が 9.0%、ミカオトリ期の土器が 0.0%である。従って、この層位はパトラチケ期からサクワリ期の層位と考えられる。第1期の建造物から出土の土器は、パトラチケ期 95.6%、サクワリ期 4.4%、ミカオトリ期 0.0%であるので、第1期の建造物はサクワリ期に建築されたと考えられる。第2期の建造物では、パトラチケ期 67.3%、サクワリ期 29.3%、ミカオトリ期 3.4%、第3期の建造物ではパトラチケ期 22.9%、サクワリ期 62.9%、ミカオトリ期 14.3%、第4期の建造物では、パトラチケ期 16.0%、サクワリ期 80.1%、ミカオトリ期 3.8%となっている。これらのデータから第2期の建造物から第4期の建造物の建築時期はミカオトリ期と考えられるが、2期、3期の建造物と4期とは規模も異なるので、<sup>14</sup>Cのデータなどを参考にしながら最終結論を出す必要がある。

図1: 各建造物出土土器の時期別構成比



## 参考文献

Bennyhoff, James A. and Rene Millon

1967 *Draft of Teotihuacan Ceramic Monograph*. Unpublished Manuscript

Blucher, Stephen F.

1971 *Late Preclassic Culture in the Valley of Mexico: Pre-Urban Teotihuacan*. Ph.D. dissertation, Brandies University, Waltham, Mass.

Millon, Rene

1973 *The Teotihuacan Map*. University of Texas Press

Ratray, Evelyn

2001 *Teotihuacan: Ceramics, Chronology and Cultural Trends*. Instituto Nacional de Antropología e Historia/ University of Pittsburgh

Sejourne, Laurette

1966 *Arqueología de Teotihuacán: La Cerámica*. Fondo de Cultura Económica, México

Smith, Robert Eliot

1987 *A Ceramic Sequence from the Pyramid of the Sun, Teotihuacan, Mexico*. Papers, Vol. 75, Peabody Museum of Archaeology and Ethnology, Cambridge, Mass

杉山三郎

2000 「テオティワカン月のピラミッドにおけるイデオロギーと国家」『古代アメリカ』第3号

